

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
神経・細胞生理学特論演習	木村 一志	2
身体機能解析学特論演習	佐藤 明紀	7
病態生理学特論演習	瀧山 晃弘	12
運動器障害学特論演習	白戸 力弥	17
高齢者リハビリテーション学特論演習	佐々木 幸子	22
神経・発達障害リハビリテーション科学特論演習	横井 裕一郎	27
職業リハビリテーション学特論演習	大川 浩子	32
心身統合健康科学特論演習	大川 浩子	37
公衆衛生学特論	佐々木 幸子	42
教育課程・方法特別演習	加藤 裕明	47

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		神経・細胞生理学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。							
授業の概要							
神経細胞をはじめとする細胞による情報伝達・情報処理機構と脳をはじめとする中枢神経系の生理機能を解明する研究手法について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く学習し、その実験技術を修得する。							
到達目標							
神経細胞・組織の分子生物学的・細胞生物学的解析方法について理解する。 神経生理学的解析方法について理解する。 生体機能を担う神経情報伝達の仕組みや中枢神経系疾患の病態生理を解明する研究を立案し、遂行できる。							
授業の方法							
配布印刷物を用いて方法を説明したのち、実験あるいは実験のデモンストレーションを行う。 実験終了後に実験目的、内容、実験結果、結果の解析、結果の考察をまとめたレポートを作成する。 内容によってはオンラインで行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

実験結果が得られるごとに討論を行いながら考察を行う。
提出されたレポートに対して、不足があれば、補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	遺伝子の研究法1: PCR法により遺伝子多型や発現量を調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第2回	遺伝子の研究法2: リアルタイムPCR法による遺伝子発現解析法を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第3回	タンパク質の研究法:ウェスタンブロッティングを行い、タンパク質発現量を調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第4回	神経細胞の研究法1: 神経細胞の培養法を習得する。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			

第5回	神経細胞の研究法2:培養した神経細胞の形態学的解析、色素染色や免疫染色を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第6回	神経組織の研究法:神経組織の色素染色や免疫染色による形態学的解析を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第7回	臓器レベルの研究法:脳スライス画像を用いて神経解剖学的解析を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第8回	ゲスト講師(摂南大学藤林真美教授)による特別演習 個体レベルの研究法1:心電図計測と自律神経活動の測定を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第9回	個体レベルの研究法2:ストレスの測定 1ー唾液アミラーゼ計測によるストレスの変動を調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第10回	個体レベルの研究法3:ストレス測定 2ーストレスホルモンの計測を行い、その変動を調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			

第11回	個体レベルの研究法4:誘発筋電図 1神経伝導速度の計測を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第12回	個体レベルの研究法5:動作時筋電図1ー上肢の表面筋電図を計測し、上肢の筋の働きを調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第13回	個体レベルの研究法6:誘発筋電図 2 H波、F波の計測を行う。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第14回	個体レベルの研究法7:動作時筋電図2ー下肢の表面筋電図を計測し、下肢の筋の働きを調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
第15回	個体レベル研究法8:超音波画像診断装置を用いて、筋の働きを調べる。	演習項目ごとに関連する文献を予習しておくこと(30分)	レポートを作成すること(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習項目ごとにレポートを作成	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
演習項目ごとに関連する文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		
神経・細胞生理学特論を履修していることが望ましい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		身体機能解析学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、池野 秀則						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「研究を遂行し、研究結果を論文にまとめて発表できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」に対応する科目である。また、リハビリテーション関連領域において中核的・指導的役割を果たす高度の専門職業人となるために、高い臨床研究能力を涵養するための授業である。身体機能解析学特論で学んだ知識を基礎とする。							
授業の概要							
身体機能解析学特論で学んだ知識を基に、生理学的、工学的、運動学的な解析手法を実際に行い、それぞれの特徴を捉える。さらに任意の課題動作において健常人に対する解析や文献的考察を行い、正常な動作と障害された動作の差異について考察する。							
到達目標							
運動及び身体機能の計測と解析を実行できる。 四肢及び体幹の運動や身体機能について正常な動作と障害された動作の差異を説明できる。							
授業の方法							
座学、グループ討議、課題に対する検討会などを行い、臨床研究に即した実践的知識・技能を深める。必要に応じてインターネットを用いた調査や学習も実施する。							
ICT活用							
必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、大森、橋田、池野は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本演習を担当する。様々な身体機能について検査機器を用いて解析し、その結果を学生と共に討論する。

課題に対するフィードバックの方法

演習内容について学生が主体的に課題を遂行し、講義内で適宜フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 前期科目の身体機能解析学特論で行った内容を踏まえて、各自で演習テーマを決める。	身体機能解析に用いられる様々な機器やデータ処理の手法について予習すること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	前回授業で決めた演習テーマに沿って、解析方法を文献等を調べながら決定する。	基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	前回授業で決めた解析方法が有効であるか否かについて文献等を調べながらさらに考察する。	基礎課題データ収集の方法について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)各自が使用する身体機能解析に用いられる様々な機器について予習すること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。	各自が使用する身体機能解析に用いられる様々な機器について予習すること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	各自のテーマに沿って学生同士でプレデータを取り、結果について検討する。また、得られたデータについて先行研究などを参照しながら学生同士で討論し、演習テーマを決定する。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行う。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	前回からの継続として、各自の演習テーマに沿ってデータの採取を行い、データをまとめる。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	中間発表を行い、学生同士で討論する。	中間発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	中間発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	中間発表および討論を元に、解析方法等についての修正を行う	中間発表・討論の結果を受けてテーマの修正が必要か否かについて内容を整理しておくこと。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第10回	前回の修正を基に演習テーマについてのデータ収集を行う。	収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第11回	前回の継続として演習テーマについてのデータ収集を行う。	収集したデータについて文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	演習テーマのデータ解析に必要な統計について学び準備を行う。	データ解析で用いる統計について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	演習テーマの発表および討論にむけて、データの確認や統計学的解析を行う。	収集したデータが示す意味について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	演習テーマの発表および討論の準備を行う。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	演習内容の関連事項について文献をできるだけ多く読み理解を深めること。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	各自の演習テーマについての発表および討論。	発表・討論に向けて内容を整理し、まとめておくこと。(90分)	発表および討論を受けて、各テーマについて復習すること。(90分)
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	授業内の課題	

その他	50	グループディスカッションへの参加態度や発言の内容を評価する
教科書		
特になし		
参考文献		
特になし		
履修条件・留意事項等		
レポート課題作成のためPC及びインターネット環境を整えておくこと。		
備考欄		
特になし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 専門基礎分野					
科目名		病態生理学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
病態生理学特論で学んだ知識に基づいて、全身諸臓器の病理組織像(プレパラート、バーチャルスライド、アトラス等)を観察し、基本的な病理形態学を学ぶための科目である。ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。」に関連する。「生命科学特論」や「病態生理学特論」、「神経生理学特論」、「運動器障害学特論」に関連し、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる。							
授業の概要							
病態生理学特論で得た全身諸臓器の主要な疾患の病態生理学的知識に加え、それぞれの疾患の形態学的所見についての理解を深める。							
到達目標							
1. 全身諸臓器の病態生理学に関する知識を深め、説明できる。 2. 全身諸臓器の基本的な病理形態学的所見を理解し、説明できる。 3. これらの知識をリハビリテーションの実践・研究に応用できる。							
授業の方法							
オンライン授業を実施する。 必要に応じパワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式で行う。 Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。							
ICT活用							
Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

病理専門医として病理診断、病理解剖に従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	1. 心臓 2. 血管 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	3. 頭頸部・鼻腔・咽頭・喉頭・耳 4. 肺・縦隔 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	5. 口腔 6. 唾液腺 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	7. 食道・胃 8. 腸管 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	9. 肝臓 10. 胆道・胆嚢 11. 膵臓 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	12. 腎臓1(糸球体疾患など) 13. 腎臓2(腫瘍性疾患など) 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	14. 尿路 15. 男性生殖器 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	16. 卵巣・卵管 17. 子宮・外陰 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	18. 乳腺 19. NET, 副腎 20. 甲状腺・副甲状腺 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	21. 皮膚 22. 骨・関節 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	23. 軟部組織 24. 脳・脊髄 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	25. 脳腫瘍・下垂体 26. 末梢神経・筋 27. 眼 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	28. 造血器 29. リンパ節・リンパ組織・脾臓 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	30. 小児・周産期病理, 胎盤 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	31. 代謝性疾患・全身性疾患 32. 膠原病・IgG4関連疾患 33. 感染症 領域の病理形態学的所見について学ぶ。	今回の学習内容について参考書やインターネットなどのツールを使い事前学習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況等。	

その他	0	特記事項なし。
教科書		
教科書は特に指定しない。		
参考文献		
組織病理アトラス 第6版／小田義直ほか(編集)／文光堂		
履修条件・留意事項等		
病態生理学特論の修得をしていることが望ましい。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		運動器障害学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	白戸 力弥、高田 雄一、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
リハビリテーション分野に関する各専門の知識と技術をもって、職場や地域社会に貢献することができる能力を身につける科目である。また、運動器障害に必要な評価、および治療を最新のEBM(evidence based medicine)に基づいて分析、研究、解明できる人材を育てるための科目である。							
授業の概要							
運動器障害治療の基礎科学、評価・治療の基本概念と、それを実践するための治療技術を修得する。 ・運動器疾患に対する基本的な臨床推論と、臨床判断の理論的背景を学修する。 ・運動器疾患に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について学修する。							
到達目標							
1. 運動器障害の治療に関する研究論文を系統的に分析、理解し、批判できる。 2. 運動器障害に対する治療効果を科学的に検証し、研究を計画し、実施できる。 3. 運動器障害に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について説明できる。							
授業の方法							
配布資料による説明をした後、実技を行うことで、運動器障害に対する適切な治療アプローチを習得する。また、ゼミ形式で症例検討や英文抄読を行い、最新の知見や研究動向を理解するとともにプレゼンテーション能力、研究能力、論文作成能力を培う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

指導にあたる教員は15年以上に渡る実務経験があり、この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各授業の終わりにディスカッションを行い、理解を深める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション コースガイドについての説明	なし	質疑応答により内容を深く理解すること。(180分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	上肢絞扼神経障害に対するリハビリテーションの最新	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	上肢変性疾患に対するリハビリテーションの最新	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第4回	肩関節機能障害とADLの関連について	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第5回	頸椎疾患のリハビリテーションについて	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	姿勢と情報機器作業(VDT作業)による機能障害発生の関係性	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第7回	股関節のマニュアルセラピーの実技演習	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	膝関節、足関節のマニュアルセラピーの実技演習	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	歩行・動作に関連する足部・足関節の評価と実技演習	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第10回	歩行・動作に基づくインソール作成①	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	高田 雄一		

第11回	歩行・動作に基づくインソール作成②	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	表面筋電図を用いた運動の解析法について	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第13回	ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習1	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	ハンドセラピー 評価とスプリントを用いた治療手技の実践演習2	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	症例検討 後方視的に文献を含めた臨床推論を行い、アプローチの科学性を討議する	演習内容について、その理論および基本的技術を理解しておくこと。(90分)	演習内容を実践できるよう理解を深めること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席率、授業態度により決定する	

その他	0	
教科書		
指定しない。適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。		
参考文献		
適宜、分献、参考資料などを紹介または配布する。		
履修条件・留意事項等		
臨床において運動器障害に対するリハビリテーションを経験していること。同特論を履修していることが望ましい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		高齢者リハビリテーション学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	佐々木 幸子、大川 浩子、未定						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」、「地域の住民に疾患・障害の予防に関する意識を啓発し、日常的な健康増進を積極的に支援することができる。(知識・技能)」、「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。リハビリテーション科学特別研究の基礎となる。							
授業の概要							
近年、医療・保健福祉の分野においては高齢者の諸問題を包括的に捉え、介護予防の視点も含めた多角的なリハビリテーションアプローチを実践することが求められている。本演習では多様な問題を抱える高齢者に対するリハビリテーション及び介護予防の効果的な実践方法について考究することを目的とする。文献抄読などを通して、先行研究の問題点と課題を考察・討論し、具体的な実践や研究に利用できる基礎能力を養成する。							
到達目標							
・高齢者のリハビリテーション・及び介護予防に関する先行研究に基づき、実践や研究の現状、問題点と課題を述べることができる。 ・学習した知識に基づいて、高齢者のリハビリテーション及び介護予防に関する研究目的、対象、手法を具体的に想定した研究実施計画書を作成することができる。							
授業の方法							
配付資料や各自が収集した資料を活用しながら演習形式で進める。							
ICT活用							
Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は老年期障害に対する理学療法・作業療法の実務経験があり、高齢者リハビリテーション学について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題に対して発表や討論を行い、得られた知識の確認を行う。
レポートにコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	国内外の高齢者を対象とした疫学研究の紹介と論文の批判的吟味	なし	授業で紹介した文献と配布した資料を復習すること。(180分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	フレイル、サルコペニア 評価法の実際と研究への応用	紹介された文献を予習すること. (90分)	資料の内容を復習すること. (90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	文献抄読 フレイル、サルコペニアをテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身研究への応用について討議する。	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること. (90分)	資料の内容を復習すること. (90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第4回	高齢者の身体活動 評価法の実際と研究への応用	紹介された文献を予習すること. (90分)	資料の内容を復習すること. (90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	文献抄読 国内外の身体活動をテーマとした研究論文の批判的吟味を行い、その課題と自身の研究への応用について検討する。	課題に関する文献を収集、抄読し発表用資料を作成すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	課題発表 介護予防をテーマとした研究計画を立案し発表、討議する	発表用資料の作成。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	高齢期に好発する神経疾患とリハビリテーション:関連する研究論文の紹介(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	未定		
第8回	パーキンソン病患者を対象とした主要な研究の紹介と論文精読(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	未定		
第9回	パーキンソン病患者のリハビリテーションにおける評価尺度と評価法(小林)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	未定		
第10回	脳血管障害患者のリハビリテーションに関連する主要な文献の紹介と論文精読(小林)	紹介された文献を予習すること。(90分)	資料の内容を復習すること。(90分)
担当教員	未定		

第11回	脳血管障害患者のリハビリテーションに関連した評価尺度及び評価法の実践(小林)	紹介された文献を予習すること.(90分)	資料の内容を復習すること.(90分)
担当教員	未定		
第12回	課題発表と討議(小林)	課題に関する文献を収集し検討すること.(90分)	資料の内容を復習すること.(90分)
担当教員	未定		
第13回	認知症に関する国内外の最新研究	課題に関する文献を収集し検討すること.(90分)	資料の内容を復習すること.(90分)
担当教員	大川 浩子		
第14回	認知症に関する文献検討	紹介された文献を予習すること.(90分)	資料の内容を復習すること.(90分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	・「生きがい」とは ・「生きがい」を構成する要素とリハビリテーション	紹介された文献を予習すること.(90分)	資料の内容を復習すること.(90分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
高齢者リハビリテーション学特論を基礎とする科目だが, 本科目だけの履修も可能		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 臨床応用分野					
科目名		神経・発達障害リハビリテーション科学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、牧野 均、金谷 匡紘、松田 直樹						
授業の位置づけ							
神経障害、発達障害全般のリハビリテーションに関する専門的知識を獲得するための科目である。この科目を学習することで広く障害を捉えることが可能となり、さらには神経・発達障害を研究的視点で捉えることが可能である。学部で学習した神経・発達障害関連の知識を、研究・臨床実践的にさらに応用できるようになる。本科目はディプロマポリシーのリハビリテーション分野の知識と技術の進歩に対応できる、またリハビリテーション分野に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応できると、関連している。							
授業の概要							
神経障害分野のリハビリテーションの対象である脳血管障害および神経難病、脳性まひなどに関する病態生理、障害の評価と運動解析、さらに機能回復に関連するメカニズムについて学ぶ。また対象者に貢献できるリハビリテーションの具体的な内容を提案するための、基礎知識から評価や治療に関する最新の知見、さらには研究的視点を学習する。							
到達目標							
1. 脳血管障害の病態について、リハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。 2. 神経障害分野のリハビリテーションに関連する最近の研究成果を説明できる。 3. 症例ごとに異なる病態・障害に着目して、最も適したリハビリテーション治療を提案することができる。 4. 最新のニューロリハビリテーションを研究成果から学習し、各自の専門分野への応用を考察できる							
授業の方法							
受講生が事前学習したものについて、教員と意見を交わしながらのゼミ形式で行う。臨床的・実践的な技能を深めるためにディスカッションを多く取り入れ、パワーポイントや動画などを活用する。治療実践が必要な場合は、リハ現場で行う。							
ICT活用							
google meetを使用した遠隔授業、課題フィードバックの実施、google classroomを使用した論文・動画資料を共有して、双方向性の演習を行う							
実務経験のある教員の教育内容							

本科目を担当する4名の教員は病院施設での実務経験を有しており、リハビリテーションの実践と研究の両面から教えることが可能である

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出されたテーマや課題に対して討論を行い、得られた知識の確認を行う。不足があれば補足ディスカッションを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション,神経障害リハビリテーションの歴史 (横井裕一郎)	事前に配布資料をまとめて、プレゼン準備をする(45分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	神経障害の陽性徴候①・痙縮と評価	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(45分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		
第3回	神経障害の陽性徴候②・不随意運動・運動失調と評価	当てはまる症例の動画を用いて説明できる準備を行う(45分)	なし
担当教員	横井 裕一郎		
第4回	脳血管障害のリハビリテーション①	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(30分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	牧野 均		

第5回	脳血管障害のリハビリテーション②	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(30分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	脳血管障害のリハビリテーション③	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(30分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	脳血管障害のリハビリテーション④	テーマに沿った基礎知識を確認しておくこと(30分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	高次脳機能障害のリハビリテーション①	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	高次脳機能障害のリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第10回	高次脳機能障害のリハビリテーション③	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		

第11回	脊髄損傷のリハビリテーション	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	牧野 均		
第12回	脳性まひのリハビリテーション	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	横井 裕一郎		
第13回	神経難病のリハビリ テーション	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	松田 直樹		
第14回	神経障害への新しいリハビリテーション①ニューロリハビリテーション	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	神経障害への新しいリハビリテーション②	事前に提示した文献・資料 を読んでまとめること。(40分)	授業で紹介した文献と資料を復習すること。(15分)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、プレゼン課題と授業への参加態度により総合的に評価します	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
授業前、授業中に提示する		
履修条件・留意事項等		
担当教員と日時調整しながら行う		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		職業リハビリテーション学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」「リハビリテーションと地域の健康支援領域のチームアプローチで、多職種との協働を理解し、中核的あるいは指導的にチームを活性化する役割を果たすことができる(関心・意欲・態度)」と関連する科目である。「職業リハビリテーション学特論」で学んだことを基礎とし、職業リハビリテーション分野で必要となる管理・人材育成の技術を身に着けるための科目であり、「リハビリテーション科学特別研究」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
職業リハビリテーション特論で学んだ知識を基に、具体的なアセスメントや介入方法について学ぶ。更には、職業リハビリテーションにおける組織運営やスーパービジョン、人材育成に関して理解を深め、現場管理者に求められるマネジメントスキルを獲得する。							
到達目標							
1)職業リハビリテーションにおけるアセスメントと介入法が説明できる(主に精神障害、発達障害に対する)。 2)職業リハビリテーションにおける人材育成の現状と課題について具体的に述べることができる。 3)職業リハビリテーション分野の管理者に必要なマネジメントスキルをあげることができる。							
授業の方法							
講義(配布資料・パワーポイントによる)とディスカッションで行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

精神科病院、デイケアでの勤務の中で就労支援及び管理職の経験があり、特に精神障害・発達障害の就労支援に対する幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題についてはコメントを付けて返却します。発表についてはその場でコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 職業リハビリテーションにおけるアセスメントと介入法について	職業リハビリテーション特論で学んだことを復習する(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第2回	職業リハビリテーションにおけるアセスメントの実際	1回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第3回	職業リハビリテーションにおけるアセスメントの課題	2回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第4回	職業リハビリテーションのアセスメント実習: ストレングスモデル①	3回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			

第5回	職業リハビリテーションのアセスメント実習:ストレングスモデル②	4回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第6回	職業リハビリテーションの介入の実際と課題	5回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第7回	職業リハビリテーションの介入:IPSモデル	6回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第8回	職業リハビリテーションにおける共同創造	7回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第9回	職業リハビリテーションにおける人材育成の現状と課題	8回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第10回	職業リハビリテーション従事者への支援①:スーパービジョン	9回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			

第11回	職業リハビリテーション従事者への支援②:ストレスと対処法	10回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第12回	職業リハビリテーション従事者への支援③:組織運営とキャリア形成	11回目の講義で提示された課題に取り組むこと。(15分)	関連する論文を検索し、読むこと。(30分)
担当教員			
第13回	発表に向けて;手順、テーマ設定	自分の興味のある論文を集め、テーマ設定について考えること。(15分)	自分の設定したテーマについて調べ、まとめる。(30分)
担当教員			
第14回	各自のテーマに基づいた発表とディスカッション	自分の設定したテーマについて、プレゼンテーションの練習をする。(15分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(30分)
担当教員			
第15回	まとめ	1～14回目の講義で得られたことと疑問点をまとめること。(15分)	講義内でのディスカッションを踏まえ、不足していた点について調べる。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業における態度、課題提出をもつて総合的に判断する。	

その他	0	
教科書		
適宜講義中に配布します		
参考文献		
職業リハビリテーションの基礎と実践/日本職業リハビリテーション学会編/中央法規出版 職業リハビリテーション入門改定第2版/松為信雄・他編/協同医書出版、他は講義中に提示します。		
履修条件・留意事項等		
職業リハビリテーション学特論を履修していることが望ましい。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		専門科目 地域健康生活支援分野					
科目名		心身統合健康科学特論演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	大川 浩子、未定						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる(思考・判断・表現)」「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる(知識・技能)」の達成に向けた科目である。「地域健康生活支援分野」に位置づけ、ヘルスプロモーション学を基礎に置き、身体・精神両機能を統合した広い視野に立ったより効果的なリハ技術を創生するために、その心身効果の測定能力を高めることを目指す科目である。							
授業の概要							
近年、人の健康に向けた様々な支援や介入法・治療法が数多く考案され利用されている。これらの方法のうち、心身統合に焦点を当てた自身の関心のあるアプローチ法を取り上げ、その治療メカニズムを理解するために必要な文献研究と議論を行う。また、そのアプローチ法の効果研究に役立つ研究法や測定技術を実践的に学修する。							
到達目標							
1. 心身の二元性・一元性を理解し、この分類におけるリハビリテーション科学の位置づけを説明できる。 2. 心身統合アプローチ法のうち、関心のあるものを取り上げ、その特徴や効果を説明できる。 3. 興味を持つアプローチ法について、その利用状況や治療メカニズム仮説などを説明できる。 4. 心身統合アプローチ法による効果研究の研究デザイン、評価法を述べ、その一つを使用できる。 5. 自身が関心をもつアプローチ法による心身効果を自身で測定できる技術の一つを獲得する。							
授業の方法							
世界の心身統合アプローチ法を概観した上で、院生の興味が強いアプローチ法を選択して、その方法を調べ資料に基づき口頭発表したり、院生や家族などをクライアントとして実際にアプローチして主観的感想を聴きとる。また、その方法の効果について文献を収集し、エビデンスの有無を調べる。選択したアプローチ法の効果研究に役立つ評価法・測定法を調べ、評価法のいくつかを実際に用いて評価したり、測定法を実際に練習し、自身の研究テーマの解決に用いることのできる指標の測定技術を獲得する。							
ICT活用							
クラウドを教員と院生が共有して文献やデータを保存し、同じ文献をともに読んだり、データの分析結果を確認し合うことのできる環境を整備する。							
実務経験のある教員の教育内容							

渡辺は30数年、ダンス・ムーブメントセラピー (DMT)を多様な対象者に実施してきた認定作業療法士。DMTの効果研究やDMT指導者の力量形成研究を行ってきた。心身統合アプローチからより効果的なリハ技術を探索するための、効果測定技術を指導する。

課題に対するフィードバックの方法

講義ごとに出てくる課題に対して文献を読み合わせ、コメントしたり、討論したりする。実際に機器や道具を使って、評価法・測定法を練習する。考察の素地形成のために、実際に数種の心身技法を体験する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 心身統合の考え方の復習。 院生による世界の心身統合アプローチ法発表。 院生の興味のある心身統合アプローチ法について探索した文献を 発表、討議。実体験。	世界の心身統合アプローチ法を 学生自身が探索し、文献検索する。 (90分)	議論の内容をメモしておく。(90分)
担当教員			
第2回	自律神経機能評価法:実際にハートレートモニターなどの 機器で測定し、メモカルクなどの分析ソフトで解析してみる。	自律神経機能評価法・解析法 について学習。(90分)	自律神経機能評価法について 文献探索、測定結果をレポート にまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	自律神経機能評価法:実際にハートレートモニターなどの 機器で測定し、メモカルクなどの分析ソフトで解析してみる。	自律神経機能評価法・解析法 について学習。(90分)	自律神経機能評価法について 文献探索、測定結果をレポート にまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	自律神経機能評価法:実際にハートレートモニターなどの 機器で測定し、メモカルクなどの分析ソフトで解析してみる。	自律神経に関する読みたい文 献を読み理解を深める。(90分)	測定法・解析法マニュアルを完 成する。(90分)
担当教員			

第5回	自律神経機能評価法:その他の方法の体験 TAS9で測定する方法	自律神経に関する読みたい文献を読み理解を深める。(90分)	測定法・解析法マニュアルを完成する。(90分)
担当教員			
第6回	脳機能の測定 fNIRSによる測定の練習	fNIRSの測定法・解析法について調べる。(90分)	fNIRSの測定と解析について必要なことをメモする。(90分)
担当教員			
第7回	脳機能の測定 fNIRSによる測定の練習	fNIRSの測定と解析について解らないことを調べる。(90分)	fNIRSの測定と解析について必要なことをメモする。(90分)
担当教員			
第8回	脳機能の測定 fNIRSによる測定の練習	fNIRSの測定と解析について解らないことを調べる。(90分)	fNIRSの測定と解析について必要なことをメモする。(90分)
担当教員			
第9回	脳機能の測定 fNIRSによる測定の練習 デジタイザーの使い方の練習	デジタイザーの使い方について解らないことを調べる。(90分)	デジタイザーの使い方について必要なことをメモする。(90分)
担当教員			
第10回	脳機能の測定 fNIRSによる測定の練習 デジタイザーの使い方の練習	デジタイザーの使い方について解らないことを調べる。(90分)	デジタイザーの使い方について必要なことをメモする。(90分)
担当教員			

第11回	院生の興味のある心身統合アプローチ法の前後変化 自律神経、f-NIRS、心理質問紙で測定、解析する。	測定のプロトコルを書き、機材の準備をする。被験者への協力を依頼する。(90分)	自律神経機能・fNIRS・デジタイザーの測定結果をエクセルに保存(90分)
担当教員			
第12回	院生の興味のある心身統合アプローチ法の前後変化 自律神経、f-NIRS、心理質問紙で測定、解析する。	被験者への協力を依頼する。(90分)	自律神経機能・fNIRS・デジタイザーの測定結果をエクセルに保存(90分)
担当教員			
第13回	院生の興味のある心身統合アプローチ法の前後変化 自律神経、f-NIRS、心理質問紙で測定、解析する。	データ解析作業(90分)	データ解析作業(90分)
担当教員			
第14回	自律神経機能・fNIRS・デジタイザーを用いた測定法マニュアルを完成する。	データ解析作業(90分)	前後変化の解析結果をもとに、実験レポートを作成(90分)
担当教員			
第15回	自律神経機能・fNIRS・デジタイザーを用いた測定法マニュアルを完成する。 まとめ 後片付け、実験についての反省など	前後変化の解析結果をもとに、実験レポートを作成(90分)	前後変化の解析結果をもとに、実験レポートを作成(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の討論や実習への積極的な参加、作成した使用マニュアルと実験レポートを評価する。	

その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		
光トポグラフィー検査ガイドブックーNIRS波形の臨床判読：中山書店, 2017 ポリヴェーガル理論入門/ステファン・W・ボージェス/: 春秋社, 2018 心理臨床におけるからだ/目幸黙僊ほか/朱鷺書房, 2007 その他. 適宜指定。文献等を配布する。		
履修条件・留意事項等		
発表・討論、実習には積極的に参加すること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		基礎科目 基礎科目					
科目名		公衆衛生学特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
授業の位置づけ ディプロマ・ポリシーの「リハビリテーションと地域の健康支援領域の知識と技術の進歩に対応できる。(知識・技能)」ことと「リハビリテーションと地域の健康支援領域に関わる地域や時代のニーズを的確に把握し、幅広い視野で柔軟に対応することができる。(思考・判断・表現)」ことに特に関係がある科目である。公衆衛生学の基本的研究手法である疫学研究方法論について、体系的に学習するための科目である。「医療統計学特論」、「研究倫理特論」、「リハビリテーション科学特別研究」と関連する。							
授業の概要							
授業の前半では、疫学で用いられる基本的指標、研究デザインの分類と特徴、各種バイアスといった疫学の基礎について概説する。特に運動疫学の観点から疾病予防、健康増進のために必要な知識と考え方、方法論について理解する。授業の後半では疫学的研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系について学習する。							
到達目標							
公衆衛生学の基本的研究手法である、疫学の特徴、調査研究の進め方を説明できる。 研究論文を批判的に吟味することができる。 研究テーマに適切な研究デザインを計画、立案することができる。							
授業の方法							
講義の場合は主に指定教科書を使用して進める。 講義中に課題を提示した場合は、次回授業で学生が課題内容についてプレゼンテーションを行う。 論文抄読の場合は事前に論文を配布し、内容をまとめたものを担当学生が発表する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして発表課題にコメントを付して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	今日の疫学的考えの位置づけと疫学的手法の概要について理解する。	指定教科書の第I章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	研究デザイン:疫学研究の分類、各手法の利点と欠点について学ぶ。	指定教科書の第II章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第3回	文献検索:文献検索の意義と具体的手法について学ぶ。	事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第4回	対象者のサンプリング:研究対象者のサンプリング及びサンプルサイズの算定について学ぶ。	指定教科書の第3、6章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			

第5回	データの信頼性、妥当性について学ぶ。	指定教科書の第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	疫学研究における各種バイアスについて学ぶ。	指定教科書の第9章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第7回	研究倫理:研究の倫理規範、人を対象とした医学系研究に関する倫理指針の主な規制点について学ぶ。	事前に配布した論文を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	統計技法:基本的な統計技法とその選択について学ぶ。	事前に配布した論文を読んでおくこと(90分)	指定した論文を読み、チェックシートに沿って発表用 にまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	統計技法:基本的な統計技法とその選択について学ぶ。	事前に配布した資料を読んでおくこと。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)
担当教員			
第10回	論文の抄読ー1 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)
担当教員			

第11回	論文の抄読ー2 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	論文の抄読ー3 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)
担当教員			
第13回	論文の抄読ー4 当番の学生が指定の論文について解説する。	事前に配布された論文を読み、チェックシートに沿ってまとめる。(90分)	研究計画の立案と発表用資料の作成。
担当教員			
第14回	疫学研究計画立案:具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。	研究計画の立案と発表用資料の作成。
担当教員			
第15回	疫学研究計画立案:発表を行う。	研究計画の立案と発表用資料の作成。	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業時質疑応答と発表課題で評価する。	

その他	0	なし
教科書		
医学的研究のデザイン 第4版/木原雅子他訳/メディカルサイエンスインターナショナル		
参考文献		
ロスマンの疫学 第2版/Kenneth J. Rothman/篠原出版新社		
履修条件・留意事項等		
なし		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 リハビリテーション科学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		教育課程・方法特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2023年後期	区分	演習	単位	2
担当教員	加藤 裕明						
授業の位置づけ							
①「教育課程・方法特別演習」(以下、本授業)は、社会情動的スキルを重視する幼児期の遊びと、学童期の学びの接続に関し、探究する力を身につける科目である。 ②同時に、各自の研究テーマにふさわしい研究の方法に関する知見を深める科目でもある。 ③本授業は、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群、特に「教育課程・方法特論」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等に接続する科目である。							
授業の概要							
幼児教育と学校教育を接続する「育ち」と「学び」に関し、受講者自ら探求する力を獲得するための理論の実践に関する知見を獲得し、探求を深める。特に後半では、受講者が修士論文を書くことをふまえ、教育学研究の方法論に関し質的研究、量的研究の双方の知見を深めるためゲストティーチャーも招きながら、研究方法についての知見を深める。							
到達目標							
①本授業を通し、受講者は、現代の学校教育の諸問題に関する本質的な点を説明できるようになる。 ②また、現代の学校教育の改革の方向について、探究することができるようなる。 ③さらに、自分自身の研究テーマをより明確なものにし、そのための研究方法に関する知見を身に付ける。							
授業の方法							
①この授業では、ゲストスピーカーも交え、パワーポイントや印刷配布物などによって解説する。 ②少人数のゼミ形式により、資料を活用した対話活動によってすすめていく。 ③ 社会人を含めた大学院生自身の経験をもとに、レポートを発表してもらい、それにもとづき、活発な対話・討議を軸にアクティブ・ラーニングをすすめる。							
ICT活用							
・e-ラーニングののプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、受講者のレポートをプラットフォーム上で共有し、対話を促進させ、アクティブ・ラーニングをすすめる。							
実務経験のある教員の教育内容							

・加藤は、公立高等学校に30年間勤務し、教科指導、HR指導、生活指導をはじめとする実践経験を有する。その経験をふまえ、教師の学びと育ちに関し考察を深めてきた。さらに、この間、演劇教育を専門的に研究し、博士学位を取得した。以上の経験を活かし、子どもたちの信頼関係づくり、協働的、活動的な学びと表現創造、そして「社会情動的スキル」(非認知スキル)の育み方等について、具体的な子どもの姿を通して、授業の中に織り込んでいく。

課題に対するフィードバックの方法

・本授業は、受講生によるレポート報告を軸に、対話活動を軸に展開し、その内容にしたがって論を組み立て、次回以降の授業を展開していく。つまり、授業のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・幼児教育と学校教育を接続させるための理論的検討を行う。	・シラバスを読んでおくとともに、自分の研究テーマについて概要を説明できるようにしておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第2回	・デューイの実験学校(デューイ・スクール)における理論と実践を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第3回	・デューイとフレーベルの理論的な接点について参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第4回	・デューイの展開した「新教育」の理論と実践を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第5回	・子どもの「衝動」と、学校教育の接続の在り方を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第6回	・学校と地域の接続のあり方を参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第7回	・デューイ実験学校の実践の記述と研究の方法に関する課題について検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第8回	・教育実践を記述する研究の方法としての質的研究法を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第9回	・調査・研究のために(1)心理測定法について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第10回	・調査・研究のために(2)統計学の基礎について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			

第11回	・調査・研究のために(3)アンケート作成法について学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第12回	・調査・研究のために(5)データ解析の基礎を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第13回	・調査・研究のために(5)演習1 サンプルデータを基にデータの扱い方を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第14回	・調査・研究のために(6)演習2 統計学的なデータ解釈の方法を学ぶ。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(25分)	・授業で配布された資料を熟読する。(25分)
担当教員			
第15回	・本演習全体をふりかえり参加者間で対話する。	・これまでの授業をふりかえり、自分の研究テーマに引き付け考えたことをまとめておく。(25分)	・授業をふまえ、自分の研究テーマをさらに具体的に設定し直す。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)	

その他	0	
教科書		
授業内で、適宜必要なテキストや資料を印刷配布します。		
参考文献		
・J.デューイ(上野正道訳者代表2019)『学校と社会』,ほか』東京大学出版会. ・加藤裕明(2016)「演劇教育における協働的創造性育成過程における質的研究」(北海道大学図書館HUSCUP) ・佐藤学(2015)『専門家として教師を育てる 教師教育改革のグランドデザイン』岩波書店. ・新幼稚園教育要領、新学習指導要領. ・鯨岡峻・鯨岡和子(2007)『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房. ・同(2009)『エピソード記述で保育を描く』ミネルヴァ書房. ・鯨岡峻(2013)『子どもの心の育ちをエピソードで描く』ミネルヴァ書房.		
履修条件・留意事項等		
・各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。		
備考欄		
・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。		